

# 中1ギャップ対策講師・外部指導者を活用した取組

## 福岡県古賀市立古賀中学校

全校生徒数	580名(男291名 女子289名)		
全クラス数	18	教職員数	38名(内体育教員4名)
運動部活動	16	運動部活動参加率(中学2年)	70.9%
地域の外部指導者の活用(年間延べ人数)			18人

### 取組時の課題と目的



#### 1 取組時の課題

5年前の全国体力調査では、本校の生徒はほとんどの種目において、全国平均を下回っていた。また、入学時に運動系の部活動に加入するものの、途中で退部する生徒も多く、3年生時での部活動加入率も減少する傾向にあった。

#### 2 取組の目的

- ①中1ギャップ対策講師（体育教員）を活用し、授業の充実を図る。
- ②外部指導者を活用した授業の工夫と部活動の活性化を図る。
- ③生徒の実態や地域の運動環境を踏まえ、小学校と連携し、連続性のある体力の向上を図り、日常的に運動に親しむ習慣を育てる。

### 取組の内容



#### 1 中1ギャップ対策講師の活用

古賀市では、中学校の学習や生活の変化になじまず、学力不振、不登校、いじめ等につながることを未然に防ぐために、中学1年生に対するきめ細かな学習指導、生徒指導を行うことを目的とする、中1ギャップ対策講師を全中学校に配置している。市内3中学校に合計7人の講師が古賀市から派遣されている。

中1ギャップ対策講師は、欠席が増えてきた生徒の家庭訪問や悩みの相談等を行っている。授業では学力不振生徒への援助を行う。

本年度は、1年生の保健体育の授業に中1ギャップ講師が加わり、TTで授業を進めている。

- ①学習形態の工夫  
ペア学習やグループ学習での補助に入る。
- ②運動が苦手な生徒の補助に入る。
- ③生徒の様相を観察し、きめ細かな指導ができるようにしている。

#### 2 外部指導者の活用

##### (1) 武道の授業での活用

武道の授業では、柔道と弓道の授業を行っている。

弓道の授業は、古賀市の弓道協会の協力を得て、本校の弓道場で授業を行っている。

古賀市の弓道協会からは、11月から約2週間にわたり、仕事を退職された方を中心に約12名の方にゲストティーチャーとして授業に協力を受けている。多くのゲストティーチャーの協力により、きめ細かな実技指導が可能になり、弓道に対する生徒の興味関心も高ま

り、安全面においても、十分に目が届くようになった。

##### (2) 部活動での活用

古賀市では、教育委員会が中学校部活動外部講師派遣事業を行っている。本校では、ソフトテニス部、卓球部、ソフトボール部、バレーボール部において、外部指導者を活用し、部活動の技術指導の協力を得て、活性化を図っている。

##### 3 小中連携した取組

古賀市では、年に2回、教育委員会主催で、市内の小中学校が参加し、体力向上プロジェクト会議が実施されている。ここでは、生徒の体力向上のために、小中が連携して取り組むことを決めたり、お互いの学校での取組で交流したりする。連携を行うことで、生徒の体力の傾向や発達段階に応じた技術指導ができる。本年度は、各学校とも年に1回以上のスポーツ大会の実施と、休み時間に外で遊ぶ児童生徒を増やすための活動の工夫を行うことになっている。

##### ●工夫したこと

- ①中1ギャップ対策講師の活用により、個別指導を充実させることで、運動が苦手な生徒も楽しく保健体育の授業に参加できるようにした。
- ②外部指導者の活用では、指導計画と指導内容について教科で検討した後、外部指導者と事前の打ち合わせを密に行い、短時間で効果の上がる学習となるよう工夫した。

### 取組の成果



- ①平成25年度の新体力テストの合計点が、2年生の男子では、全国平均を上回った。また、1週間の総運動時間も、男子は、全国平均よりも300分多くなっており、運動する習慣が定着しつつある。
- ②弓道の授業後に、弓道に興味をもち、弓道協会の練習に参加する生徒が出てきた。弓道は、運動が苦手な生徒でも取り組みやすいので、生涯スポーツにつながる取組ができた。

### 今後の課題

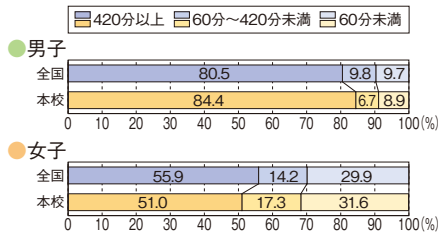


女子の1週間の総運動時間は、男子の半分以下であり、420分以上の割合も、全国平均を4.9ポイント下回っている。運動部への加入率も年々低くなり、女子の運動離れが深刻である。女子の運動離れの改善策を、小学校とも連携しながら取り組んでいきたい。

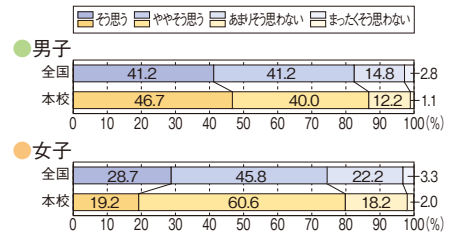
●体力合計点と運動時間

	男子	女子	
体力合計点(点)	44.2	48.2	
(学年別)総平均	A	12.5	23.9
	B	27.5	29.5
	D	17.5	14.8
	E	5.0	0.0
	AB-DE	17.5	38.6
1週間の総運動時間(分)	1231.7	566.5	
60分未満の割合(%)	8.9	31.6	

●1週間の総運動時間の分布



●【質問17】体力を高めたり、健康を保持増進したりできる



「1校1取組」運動を位置付けた体力向上プラン

1 体力向上「1校1取組」運動名

握力アップ運動の取組

2 新体力テストの調査結果の分析・考察

- ・全国平均と比較して、全学年男女とも握力と持久走が劣っている。(男子は学校平均28.5kg、女子は学校平均23.5kg)
- ・男子は、上体起こしと50m走が1・2年ともに劣っている。女子は、反復横とび、50m走が全学年とも劣っている。
- ・全校生徒のうち、約80%が部活動に所属しており、週5日以上運動している生徒が多いが、体力があまりついていない。特に、女子の運動量が少なく、体力も多くの項目で全国平均より劣っている。

3 目標指数・数値

- ・新体力テストの握力の学校平均値を昨年度より+1kgにする。
- ・体力アップシートの活用率を100%にする。

4 本年度の重点「1校1取組」の設定

- ・保健体育の授業時の準備運動の中に握力の補強運動を入れる。
- ・体育委員会の活動の活発化を図り、昼休みのボールの貸出しをスムーズに行い、外で運動する生徒を増やす。(体育館の使用検討。一定の期間、学年使用曜日を設定)
- ・年に1回クラスマッチを実施し、教科カリキュラムに運動させる。
- ・保健体育の授業の中で、セルフメディケーションの意識を育てる。

5 評価方法

- ・5月に新体力テストを実施し、来年度の2月に再度、握力のみ測定を実施する。
- ・握力の伸びをグラフ化して比較する。

中1ギャップ対策講師を活用した授業



外部指導者の活用

授業における活用(武道)



部活動における活用

外部指導者の  
バレーボール部の



外部指導者の  
男子ソフトテニス部の

